

彫金家 清水南山

広島が生んだ近代金工の巨匠
The Master of Modern Metalwork from Hiroshima

彫金家 清水南山 ー広島が生んだ近代金工の巨匠
記念講演会「日本の彫金～技術とその魅力」
(広島県立美術館友の会共催)

1月22日(日) 13:30～15:00

広島県立美術館 地階講堂

※聴講無料、申込不要、定員200名、当日先着順

講師にお迎えするのは東京藝術大学教授の飯野一朗先生です。

飯野先生は埼玉県の御出身。東京藝術大学美術学部及び美術研究科で彫金を学び、修了後は同学で後進の指導にあたり、2005年に教授に就任。今年3月、40年間在職した同学を退任されます。

東京藝術大学の前進である東京美術学校は日本伝統美術の保存・継承を目的に設立されましたが、彫金は伝承すべき重要な伝統的美術文化の一つとして開学当初から設置された課程です。現在の東京藝術大学工芸科彫金研究室でも開学当時の伝統を強く受け継ぎ、伝統技法の習得、日本独特の合金の研究を通して自己の表現を探求しています。

飯野先生御自身も、「伝統技法によるジュウリー、クラフトの新しい展開と各種素材の持つ可能性の追求」を研究課題に、新しい視点と卓越した技術によるユニークで風格ある創作活動、後進の育成、金属素材の研究、彫金文化の普及、文化財や美術品の修復など現代彫金界の第一人者として活躍してこられました。

その生き方は、伝統的彫金技術を「貴い技」として伝承することを第一義としながら、「伝統といふ事は決して形式の模倣ではない。…伝統とは内に潜むものの外へ向かっての現はれである。形は新しく変わっても、いや、形が常に変わって絶えず新鮮であるところに健全な伝統精神が貫かれるのである」との開明的な考えのもとで創作し、比類のない誠実さで学生たちを指導した清水南山に通じるもので、飯野先生が東京美術学校で昭和20年まで彫金の教授を務めた清水南山の長い年月を越えた後任者であることを実感させます。

今回は、脈々と受け継がれる日本特有の彫金文化について、その技術と魅力を中心にお話しいたします。

